

英語学習におけるサクセスストーリーの作り方

Creating Success Stories in Learning English

畠 山 義 啓

Yoshihiro Hatakeyama

(要 約)

英語学習におけるサクセスストーリー（成功体験）を積み重ねる手段として、ハンドライティング、カリグラフィ、発声法、聴く耳の養成、英文タイピングを導入することを検討した。こういった項目は、身体活動の一部であり、トレーニングさえすれば達成でき、英語学習におけるサクセスストーリーとなる。このことが英語を学習するモチベーションとなり、新たな英語学習への道を開くという提案である。

(キーワード)

英語学習のリセット、英語学習サクセスストーリー、身体活動としての英語学習

はじめに

国際化の名のもとに、英語科目は従来から大学、短大において必須科目として設置されてきた。また、大学設置基準の緩和、特色ある大学を目指す取り組み、大学評価に伴う学生授業評価導入などによって、より実用的な英語教育が進められてきた。実用的である、企業が求めているということで、英語科目が、TOEIC 受験対策講座となっている傾向も多く見受けられる。2011 年度より小学校へ外国語活動が必修の形で導入された一方、依然としてゆとり教育による英語力の低下といった問題があり、英語に関する全般的な学力低下と、学力格差が顕著になってきていると考えられる。そのような状況にあって、短期大学における英語教育がどうあるべきなのかについて、常に状況を把握しながらあるべき方向を模索していく必要がある。語学は継続が大切であることは言うまでもないが、低下と格差といった目の前の問題を抜きにして検討することはできない。そこで、考えられるのが、学生が中学、高等学校で受けてきた英語教育の流れをリセットしてみてもどうかということである。しかし、リセットのやり方に無理があると、学生たちは不安になり、ストレスを感じることもなりかねない。たとえば、今日からは英文は日本語に訳さないで解釈することにしましょうと指示を出したならば、多くの学生たちはとても困ってしまうというのが実情である。英会話クラスで、どんなに簡単な英語でも日本語に訳してから、その答えを日本語で考えてさらに英文を考えて発話している姿をよく目にすることがある。このことが示すように、リセットは学生たちが従来から慣れ親しんでいた英語理解の流れを否定してしまうことではないことがわかる。では、リセットはどうあるべきなのか。今回のわたくしの取り組みは、このリセットのあり方を検討していくものである。そして、このリセットの目指す方向は、学生の英語学習におけるサクセスストーリー（成功体験）を増やしていくことである。サクセスストーリーの積み重ねが、学習へのモチベーションを高め、卒業後の自立した学習へとつながると考えるからである。リセットを展開していくに当たり、「目指す方向の転換」「書くことの楽しさ」「音を出すことの楽しさ」「聴くことを鍛

える」「英文タイプへの挑戦」「話すためのトレーニング」という順序で検討していく。

1. 目指す方向の転換

1996年、高田短期大学に教養学科英米文化コースが設置されたのを機にコンピュータを使ったCALL (Computer Assisted Language Learning) を導入した。その時の目標は、TOEIC のスコアアップであった。ネイティブスピーカーを常勤で採用するとともに海外英語研修をスタートさせ、英語を集中して学習できる環境を用意した。学生入学時のTOEIC IP テストのスコアは、190-300 といったところだった。在学中に、TOEIC スコア 600 を獲得する学生も出てきた。しかし、学科の改変、入学生の変化、英語の基礎学力低下といった状況の中で、学生のTOEIC スコアは、200 以下が多くを占めるようになってきている。TOEIC は実用英語によるコミュニケーション力を問う試験である。スコア 200 以下の学生に、リスニング 100 問 60 分、読解 100 問 70 分の試験を受けさせること自体、苦痛の何物でもない。また、対策講座を開くとして、英語会話力、語彙力、リスニング力、速読力、読解力、文法力といった力を養成していかなければならない。さらに、モチベーションがないとすれば、それは教師も学生にとっても無意味なものになってしまうであろう。

英語が得意でない中学生に「どうして英語を勉強しなくてはならないの」と聞かれたらどのように答えるべきだろうか。同じ質問を短大生から受けたらどうだろう。中学生に対しては、「君の将来の進学のことを考えるとどうしても必要だ」という答えもあるだろう。では、短大生には「国際化の時代だから、どうしても必要なんだ」と答えることで、相手が納得し、学習意欲が上がるだろうか。モチベーションの向上には、サクセスストーリーが必要である。

2. 書くことの楽しさ

現在、中学校、高等学校では、英文の筆記体は教えていない。英語圏で育ったものが知っていて当然のことが、日本の学校教育における英語教育の中でいくつか欠落していることの一つと言える。この欠落ということに関して、平野敬一が Mother Goose について同様の指摘をしている。¹「イギリスの伝承童謡は、わが国では、なんとなく学習や研究の盲点になっているという状況なのだが、英語国民の意識形成や言語表現にこれほど大きな役割をはたしてきたものを、無視することはないように思える。」欠落を埋めるという意味で、改めて紙と鉛筆で alphabet を筆記体で書くことから始めることが必要であると考え。言語は人間が使用する道具であり、アナログ的なものである。人間同士のコミュニケーションの楽しさは、受験英語、TOEIC 対策英語の中には存在しない。ひととおり alphabet が書けるようになったならば、カードの練習をするとその楽しさが理解されるはずである。実際に、筆記体ワークブック²を使用して、ゼミナールの学生を対象に指導してみると、「以前から筆記体を書いてみたかった」、「筆記体を書けることがうれしい」という感想が多かった。以下の図は、筆記体ワークブックからの抜粋である。

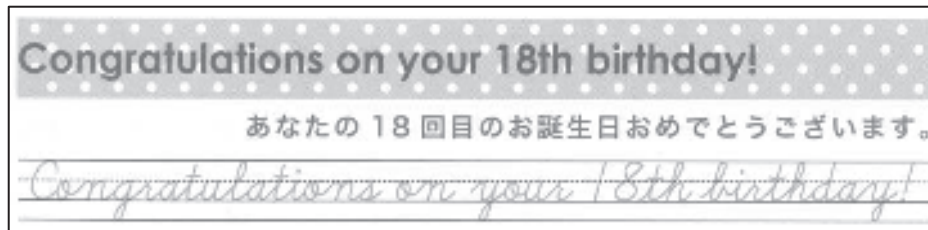


図 1 筆記体ワークブックからの抜粋

さらに、筆記体の読み書きができるようになれば、calligraphy カリグラフィーに挑戦してみるとさらに学生の可能性は開けてくる。Apple 創業者である、Steve Jobs スティーヴ・ジョブズは、伝記のなかで calligraphy に関して以下のように述べている。

“The minute I dropped out I could stop taking the required classes that didn’t interest me, and begin dropping in on the ones that looked interesting,” he said. Among them was a calligraphy class that appealed to him after he saw posters on campus that were beautifully drawn. “I learned about serif and sans serif typefaces, about what makes great typography great. It was beautiful, historical, artistically subtle in a way that science can’t capture, and I found it fascinating.” ….

“If I had never dropped in on that single course in college, the Mac would have never had multiple typefaces or proportionally spaced fonts. And since Windows just copied the Mac, it’s likely that no personal computer would have them.”³

Reed College を半年ほどで中退したあと、Reed College で行われていた calligraphy の授業に潜り込んで受講していたのである。そして、calligraphy の美しさに魅せられ、Macintosh コンピュータを設計していく中で、calligraphy への造詣がコンピュータのフォントに影響することになったのである。周囲の人間がフォントを無視する状況の中で、Jobs が Reed College で得た calligraphy に関する興味と関心が Macintosh に美しいフォントを与えることになったのである。さらに、Macintosh コンピュータのフォント技術が DTP デスクトップパブリッシングを可能にしたのである。

Markkula and some others could never quite appreciate Jobs’s obsession with typography. “His knowledge of fonts was remarkable, and he kept insisting on having great ones,” Markkula recalled. “I kept saying, ‘Fonts?!? Don’t we have more important things to do?’” In fact the delightful assortment of Macintosh fonts, when combined with laser-writer printing and great graphics capabilities, would help launch the desktop publishing industry and be a boon for Apple’s bottom line.⁴

学生が、カリグラフィーの基礎を練習することで、文字の歴史の深さを理解するとともに、アルファベット文字への親しみ、書くことの楽しさがより養われ、さらにはコンピュータを使って、文書を作成する、カードを作成する際には文字を大切に扱うことができるようになる。さらに発展して、DTP への

興味を喚起することにもなると考えられる。専用の道具を揃えなければならないが、初歩の段階では、フェルトペンタイプの安価なカリグラフペンを使って基本を習得することで十分である。そして、Birthday card などの Greeting card を完成することができれば、達成感があり、ひとつのサクセスストーリーが出来上がるのである。以下に示す図は、小田原真喜子著カリグラフィーからのものである。⁵



図 2 カリグラフィーからの抜粋

3. 音を出すことの楽しさ

英語の発声は日本語のそれとは大いに異なるのである。英語の発音は、音の強弱でリズムが出来上がるのである。それに対して日本語は音の高低で発音されている。音の強弱を発生させるには、音の出し方を練習する必要がある。発声法も発音記号同様、中学・高等学校での英語教育の欠落した部分である。

まず、音の出し方の基本を練習するには、以下の手順で行う。(図 3 参照)

- ①足を肩幅に開き立つ
- ②腹筋の動きがわかるように、片手を軽く腹の上に置く
- ③息を吸い込み、腹に力を入れて音を出しながら発声する

この練習を行うときに、ローソクを口の前で持ち、発声するときはその炎の揺れ具合を見ると、腹から音が出ているかどうか確認できる。(図 4 参照)

音の出し方が理解できたならば、改めて alphabet のそれぞれの発音を練習していく。このとき同時にリズムの習得をねらいとして、歌を導入する。新たに Oxford Univ. Press より出版された幼児英語教育向けの教材“Everybody Up”⁶がこの目的に相当であると判断している。テキストの概要は、出版社のウェブページにあるオンラインカタログで確認することができる。⁷収録されている歌は従来の子供向けの物とは大いに異なり、年齢を問わず楽しみながら練習できるものとなっている。ここに収録されている ABC song を使いながら、一つ一つの alphabet の口の様子、音の出し方を教えていく。この歌は、現在 OUP ELT Global より YouTube にアップされているので、YouTube 検索窓に“oup the alphabet (Sing-along)”と入力することで、視聴できるようになっている。⁸



図 3 発声練習



図 4 発声練習

4. 聴くことを鍛える

学生たちから、「英語を話せるようになりたいのですが、どのようにすればよいですか」といった質問を受けることがある。会話というのは、言葉のキャッチボールに違いないが、ネイティブスピーカーと話すのがあまり得意ではない人が会話をするとなると、話すことと聞くことの比率はどうなるだろうか。話すことに慣れていない人は、聞くことが占める割合が高くなるのである。場合によっては、2:8 か 3:7 ということも考えられる。ということは、会話といっても話すことより聞く比率がとて高いということである。この比率のことを考えると、英会話が得意になりたいならば、英語を聞くためのよい耳を養成する必要があるということである。

ここで、もう一つ確認しておくことがある。文章を理解するという行為は、頭脳を駆使して文字を解釈するのであるが、会話という行為は、聴覚、視覚をはじめとする人間の五感を駆使した身体活動であるということだ。身体活動であれば、そのためのトレーニングが必要になってくるということである。スポーツを例にとるとわかりやすい。特定のスポーツ、例えばテニスができるようになりたいとして、いくらそれに関する書籍を読んだとしても、ラケットでボールを打つことすらできない。実際にテニスコートに出て、ラケットを手に練習しなければテニスはできないのである。それと同様に会話という行為は、身体活動であって、テニスでいえば、ラケット、シューズ、ウェアを選び、体力をつけ、コートで練習しなければならない。聞くという行為は、大切なその一部分であると認識すればよい。聞くことのトレーニングとして、以下の要領で行うことが効果的であると考えている。

- ① 教材選び：CD 付きの教材であること。難易度の目安として、1 ページにわからない単語が 5 個未満を基準とする。興味のある内容を選ぶ。
- ② リスニング：テキストの長さによるが、2 - 3 パラグラフ程度を文字を見ないで最低 5 回は聞く。
- ③ 文字による確認：文字を見ながら、音声と文字を確認しながら、3 回程度聞く。
- ④ 音読：声を出して、3 回以上音読する。
- ⑤ シャドーイング：CD による音声を流しながら、1 語程度遅らせて音読する。
- ⑥ リスニング：文字を見ないで、3 回以上聞く。

以上のトレーニングは、前述の音を発生する訓練との併用であり、繰り返すことにより、今まで聞き取れなかった英語が自然と耳に入ってくるとともに、英語のリズムを体で覚えるようになるのである。

5. 英文タイプへの挑戦

学生たちは、日本語ワープロについては高校時代から取り組んでおり、タッチタイピングができる者も多くいる。しかし、ひとたび文字が日本語から英語になると戸惑ってしまうようである。まったくと言ってよいほど今まで英文を入力した経験が無いようである。すでにキーボードの配列は理解しているので、あとは練習すれば短時間のうちに英文を入力することができるようになる。このことは、学生が持っている技能を少しの努力で引き上げることになるので、もう一つのサクセスストーリーとなる。

また、学生たちは、英文タイプができるようになれば、自分たちが英語科目で使用しているテキスト文をワードに入力し、ワードの辞書機能を使いながら独自の学習ノートを作っていくことができる。そうすれば、相乗効果で英文を読む力を養成することができる。

英文タイプを練習するには、ウェブを活用することができる。Googleに「英文タイプ」と入力すれば、様々な学習サイトがあることがわかる。ここでは、そのひとつである、e-typingを紹介しておく。⁹このサイトは、オンラインで英文タイプの練習ができるようになっている。初歩の「指ならし練習」から「英文書き出し文練習」「来客の応対」「交渉でのやり取り」「電話のやりとり」「プレゼンテーションの決まり文句」「会議でのやりとり」「ライティングの基本文例」といった高度な英文まで網羅している。以下に示す図は、e-typingで使用されている表現と入力画面である。

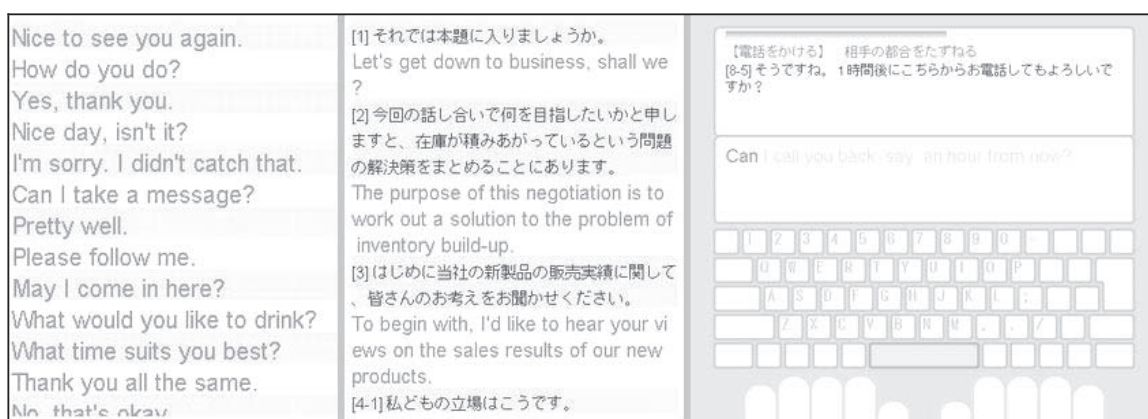


図 5 e-typing の実際

6. 話すためのトレーニング

日常会話は、中学英語で十分だという意見がある。また、日頃から英語で考える習慣をつけるようにという見解もある。どちらも正解であろう。しかし、こういった意見は、会話ができるようになった者が言っているに過ぎない。どのようにそこにたどり着いたかは、様々な方法が存在するのも事実である。すべての人間が同一の方法で英語が話せるようになるわけではない。望ましいのは、自分で悪戦苦闘しながら、自分に最適な学習方法を見出すことである。しかし、今回のわたくしの取り組みは、身体活動を通しての英語学習がテーマであるので、トレーニング方法という視点から検討していく。私自身、高校時代に、文法書の基本文型をほとんど丸暗記した。また、教壇に立つようになってからは、*Longman Dictionary of Contemporary English*¹⁰にある例文を活用して4年制大学で指導してきた。そういった経験が土台となって、様々な例文が自然と頭に浮かぶようになっている。この経験から、簡潔な例文を暗記することが、簡単な英語を使用して会話を行うこと、英語で考える習慣を身につけることに効果があると考えられる。その練習をするための様々な教材を検討してきたが、例文中の英単語が難解であったり、いきなりビジネスの現場を扱っていたりと、英会話身体活動のトレーニングに使用するには不向きなものが多かった。教材を模索するなかで森沢洋介「話すための瞬間英作文トレーニング」シリーズが適しているという結論にたどり着いた。その根拠として、中学生レベルの英単語と文法ですべての例

文が構成されている。初歩の段階では、中1レベルから基本的表現の練習で始まり、進捗度によりシリーズ¹¹が用意されている点である。左側ページに日本語があり、その英文を考え発話する。わからなければすぐに右ページの英文を見て練習する。CDを併用しながらそれを繰り返すのである。著者の言葉によれば、「簡単な英文を楽にたくさん作って英作文回路を作る」とのことである。図6は、スラスラ話すための瞬間英作文シャッフルトレーニングからの抜粋である。

● 雨が降って欲しくないな。	● I don't want it to rain.
● トムはよくここに来ますね。	● Tom often comes here, doesn't he?
● もっとゆっくり話してくださいませんか？	● Will you please speak more slowly?
● 僕はこの制服を着なければなりませんか？ —はい、そうです。	● Do I have to wear this uniform? —Yes, you do. / Must I wear this uniform? —Yes, you must.
● 私はもっと大きい家に住みたいの。	● I want to live in a bigger house.
● 君は金持ちと結婚したんじゃないだよ。	● You didn't marry a rich man.
● 同じことがまた始まった。	● The same thing happened again.
● 彼が僕たちにした話はとても面白かった。	● The story (which / that) he told us was interesting.
● だれもその少年の言うことを信じなかった。	● Nobody believed what the boy said.
● 羊はみんな狼に食べられた。	● All the sheep were eaten by the wolf.

図6 瞬間英作文シャッフルトレーニングからの抜粋

おわりに

英語学習でのサクセスストーリーということをテーマに様々な手法を考察してきたが、それらの共通点は、現在の学校教育から欠落していること、身体を使った活動であることが挙げられる。英語を学び始めた時から興味が持てない、将来の目標はまだ定まっておらず英語を身につける必要があるかどうかわからないといったように英語学習へのモチベーションが低い場合、従来から見落とされていた分野に取り組むことで上昇スパイラルを形成することができる。

ただし、身体活動としての英語学習トレーニングを行う上で、注意しておかなければならないことがある。このことは、まさに体育系身体トレーニングと同じところがあるということだ。つまり、トレーニングをすれば向上するが、ひとたび休止したならば、驚くほどの勢いで、いままでトレーニングした成果が消えていってしまうということである。個人差はあるが、わたくしの場合、3週間英語を話さないと感覚が鈍ってくることを経験したことがある。せっかくトレーニングを行っても継続しなければ、どんどん衰えていくということを認識しておく必要がある。

そして、興味が出てきたならば、次のステップとして英語に関する資格取得を目標に設定することができる。サクセスストーリーを作り出すということと就職活動のことを考慮に入れると、日商ビジネス英語検定 3級が「就業前に身につけるべき英語によるビジネスコミュニケーションの基礎的な能力を有する」となっており、妥当であると判断している。そのテスト項目にある「英文レターライティング、海外取引」といった分野をどのような体制で教授していくかが検討課題ではある。今回、改めてタ

イブ教本を探している中で、オフィス人材育成学科の前身である教養科創設当時、英文タイプを担当していただいていた小川久夫先生の *For Exact Typing* というテキストを自分の研究室で再発見した。実によくできているテキストで、その当時から技能の高い人材の養成をしていたことを改めて痛感した。ビジネス英語検定受験を目標に入れるならば、英文タイプについて当時の教育体制の再現が望まれる。

註

- 1 平野敬一 マザー・グースの唄 イギリスの伝承童謡 中公公論新社、 1972 年、 p.7
- 2 国際語学社編集部 筆記体ワークブック 国際語学社、 2010 年
- 3 Walter Isaacson *STEVE JOBS* Simon & Schuster, 2011, p.41
- 4 Walter Isaacson *STEVE JOBS* Simon & Schuster, 2011, p.131
- 5 小田原真喜子 カリグラフィー 本格入門独習ブック 日本ヴォーグ社、 第 19 刷、 2009 年
- 6 Patrick Jackson, Susan Banman Sileci *Everybody Up* Oxford University Press, 2012
- 7 http://www.oupjapan.co.jp/index_en.html
- 8 <http://www.youtube.com/watch?v=6kGKYSi35zQ>
- 9 e-typing: <http://www.e-typing.ne.jp/index.asp?mode=eigo>
- 10 *Longman Dictionary of Contemporary English* 2nd ed. Longman Group UK Limited, 1989
最新版は 5th ed.
- 11 森沢洋介 *CD BOOK* どんどん話すための瞬間英作文トレーニング ベレ出版、2010 年
森沢洋介 *CD BOOK* スラスラ話すための瞬間英作文シャッフルトレーニング ベレ出版、2009 年
森沢洋介 *CD BOOK* おかわり！スラスラ話すための瞬間英作文シャッフルトレーニング ベレ出版 2010 年
- 12 小川久夫 *For Exact Typing Series 1* 中部日本教育文化会、 1991 年